

川端康成学会 第178回例会

日時 2019年6月29日(土) 14:00より

場所 昭和女子大学 1号館5階5S03

*研究発表

「川端康成の文学評論における〈詩的精神〉」

北海道大学大学院文学研究院専門研究員 常 思 佳

「人物を描く、人体を描く—川端康成『美しさと哀しみと』論」

静岡大学准教授 中 村 ともえ

*閉会の辞

川端康成学会会長 片 山 倫 太 郎

司会 田 村 充 正

*当日受付にて、参加費 500 円を頂きます。ご了承ください。

*当日受付にて、年会費の納入を承ります。併せて、維持会費もよろしくお願ひいたします。

*例会終了後、懇親会を予定しております。奮ってご参加ください。

*当日、12時より1号館5階5S03にて理事会を開催いたします。常任理事の皆様はお集まりください。

*今後の例大会の開催予定日をお知らせいたします。第46回大会は8月24日・戦跡ツアー25日、第179回例会は12月7日を予定しております。第179回例会の日程は総会時より変更となりました。ご了承ください。

上記の日程は変更になる場合もございますので、ご了承ください。

なお、例会での研究発表希望者を随時募集しております。ご希望の方は事務局長・堀内京 (kawabata.y.ac.1970@gmail.com) までご一報いただけましたら幸いです。

*会員の皆様には「年報」31号(2016年)までのバックナンバーを送料込み1部500円で販売致します。最新号と前号は会員価格2,000円で販売致します。なお、在庫切れの号もありますので、詳細は事務局長・堀内京 (kawabata.y.ac.1970@gmail.com) まで、お問い合わせ下さい。

*例会についてのお問い合わせは下記にお願いいたします。

〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836 静岡大学人文社会科学部言語文化学科 田村充正研究室

電話: 090-6180-3670 メール: kawabata.y.ac.1970@gmail.com

【発表要旨】

*常思佳（北海道大学大学院文学研究院専門研究員）

「川端康成の文学評論における〈詩的精神〉」

川端康成は、生涯にわたって文学評論を書き続けた作家である。片山倫太郎は、一連の論考を通して、そうした文学評論と同時代の小説に見られる〈詩的精神〉との関連性及び、その系譜を跡づけている。

本発表は、このような先行研究を踏まえ、「新進作家の新傾向解説」(『文藝時代』第二巻第一号、一九二五・一)に書かれた「新進作家の作風に新しい『ポエム——詩美』を漂はせる」という考え方に着目し、その他の文学評論に使われている「ポエム」、「詩」、「をさなごころ」、「純粹の精神」といった言葉との関連を検証する。それにより、各々の評論に内在している〈詩的精神〉について分析し、それらの間の連続性を探ってみたい。

*中村ともえ（静岡大学准教授）

「人物を描く、人体を描く—川端康成『美しさと哀しみと』論」

『美しさと哀しみと』は、かつて恋愛関係にあった男女、大木年雄と上野音子が二十余年ぶりに再会する章からはじまる。本作は以後、彼らがもう一度だけ対面する最後の章まで、鎌倉にいる大木と京都にいる音子の章を交互に配し、構成におけるシンメトリーを作り出している。大木は小説家、音子は画家であり、双方に愛の対象である人物をモデルに制作するという設定が与えられてもいる。ただし、大木の小説「十六七の少女」が音子をモデルにするのに対し、音子が描こうとする「三つの愛」の対象は母・嬰兒・弟子のけい子で、大木は入っていない。なぜ大木は描かれないのか。発表では、登場人物たちの心理に理由を求めるのではなく、人物を描く方法に関わる問題としてこれを考察したい。具体的には、モデルをめぐる人物たちの議論、音子とけい子の作品、実在する画家や作品への言及など、作中の絵画に関連する要素を手がかりにして、人物を、人体を描く方法論を抽出する。

【会 場】昭和女子大学1号館5階5S03（〒154-8533 世田谷区太子堂1-7-57）

【アクセス】*地下鉄：東急田園都市線（半蔵門線直通）「三軒茶屋」駅下車徒歩7分

*バス：●渋谷駅から下記方面行きを利用し、「昭和女子大」下車（上町・等々力・田園調布・弦巻営業所・二子玉川・高津営業所・成城学園・祖師谷大蔵・狛江・調布）●目黒駅・祐天寺駅から三軒茶屋行きを利用し、「三軒茶屋」下車●下北沢駅から駒沢陸橋行きを利用し、「三軒茶屋」下車

